

2016年4月3日

## 福音書からのメッセージ

それから、トマスに言われた。「あなたの指をここに当てて、わたしの手を見なさい。また、あなたの手を伸ばし、わたしのわき腹に入れなさい。信じない者ではなく、信じる者になりなさい。」

(ヨハネによる福音書 20章 27節)

先週、わたしたちはイエス様の復活をお祝いしました。そして今日読まれた物語は、イエス様が復活したその日の夕方と、その八日後、つまり次の日曜日の出来事となっております。

復活の日の朝、マグダラのマリアの元に復活したイエス様が現れたとあります。そのマグダラのマリアは弟子たちに、「わたしは主を見ました」と告げます。

しかし弟子たちは、マグダラのマリアの言葉を通してイエス様が復活されたと聞いたにもかかわらず、ユダヤ人を恐れて自分たちのいる家の戸に鍵をかけていました。家の戸に鍵をかけるのは、怪しい人が入って来ないためだとか、泥棒に家のものを持って行かれないためだとか、そういう理由があります。また人と会いたくない、誰の訪問も受けたくない、他の人と自分たちとの間を遮断したい、そのような時に鍵をかけるのではないのでしょうか。

しかしイエス様は、その鍵のかかった扉をこえて弟子たちのところに来られました。それは「信じない者ではなく、信じる者になりなさい」というメッセージを伝えるためです。十字架につけられたイエス様は復活されました。でもそれで終わらないのです。復活の日の夕方、マグダラのマリアの言葉を信じられず、扉を閉め、鍵をか



けてガタガタと震えていた弟子たちの中にイエス様は来られました。そしてまた、他の弟子たちの話を信じることのできなかつたトマスの元にも来られたのです。

イエス様が来られたのです。恐れや戸惑い、不安、暗闇を感じ、明日に向かう一歩を踏み出すことのできない人たちの元に、イエス様は来られました。そして今、ここにいるわたしたちのところにも、「信じない者ではなく、信じる者になりなさい」と何度だって来られるのです。

今、この場にイエス様がいてくださる。ふとした心の隙間に、神さまが感じられる。礼拝の中で、御言葉に触れたときに、聖餐をいただいたときに、人と関わった時に、心の扉を閉め切って一人暗闇に閉じこもった時に、どんな時にもイエス様は来てくださる。「わたしはいつもあなたたちと共にいる。大丈夫、安心なさい」。そう言って、わたしたちを包み込んでくださっている。わたしたちが気づくまで、何度でも心の扉をノックし続けてくださるのです。それが復活のイエス様との出会いなのです。

主は共におられます。

### 桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>